

アマチュアリズムが及ぼすトップリーグの地域格差の影響について About the influence of the geographical inequity of the top league that Amateurism causes

1K03B133-5

氏名徳永佑太郎

指導教員 主査 宝田雄大 先生 副査 寒川恒夫 先生

序章

低迷打開の切り札として「ジャパンラグビートップリーグ」が2003年に発足した。現在3シーズンを終えて、4シーズン目に入ったトップリーグは集客に苦しんでいる。このトップリーグの先には日本代表の強化、ラグビーワールドカップの日本招致があり、トップリーグには日本ラグビーの浮き沈みがかかっている。日本ラグビー界が観客数やファンの新たな獲得のため商業的な経営をするべき時が来ている。にもかかわらず観客動員は下降をたどっている。トップリーグのアマチュアリズムからの発展、観客数と試合開催地について研究しようと思った。

第一章

しばしば「紳士が行う獣のスポーツ」と形容されるラグビーとは、相手のインゴールまでボールを持ち込むことでコンバージョンキックによる得点チャンスを得る「トライ」をしてその合計得点を競うスポーツである。

ロンドンのパブリックスクール“ラグビー校”で生徒であるのエリス少年がラグビーの基本を作ったという伝説が残されている。ラグビーフットボールには、古代フットボールに源があり、それは年1回行われた祭りの要素を持ったボールゲームであった。ルールがなかったので、負傷者、死者が続出して1314年にエドワード二世の名でロンドン市長、ニコラス・ファーンドンが、『フットボール禁止令』を出している。

1899年慶応義塾の英語教師として新任したイギリス人、E.B. クラークがケンブリッジ大学で自ら体験したラグビーを、同じく同大学で学んだ田中銀之助の協力のもとに、慶応義塾の学生達に直接指導したのが日本ラグビーの発祥である。

第二章

アマチュアリズムとは、アマチュアが持つスポーツへの態度や考え方を尊ぶ主義主張である。これは長らくスポーツ界において影響を与え続けた思想であった。

ラグビーという立場からアマチュアリズムを考えると、イギリスの中、上流階級の資産家層のジェントルメンシップを自負する者達によってラグビーのアマチュアリズムは創られたといえる。1995年8月、100年以上に及んでラグビーチームの基本精神であったアマチュア規定を、

世界ラグビーの統一機関である国際ラグビーボード（IRB）アマチュア臨時理事会は、パリにおいて選手参加規約を改正し、アマチュアリズム破棄、完全にオープン化する事で合意したのである。そして同10月東京における理事会で承認された。

第三章

2002年5月に日本ラグビーフットボール協会により発表されたジャパンラグビートップリーグは、以前の地域リーグと全国社会人ラグビーフットボール大会を発展解消させ、全国の社会人チームの強豪が一同に会し、レベルの高い試合を増やし、日本ラグビーの活性化につなげる事を目的として2003年に発足した。

集客に成功した試合には共通する傾向がある。それは、ホームチームが人気チーム（神戸製鋼、サントリー）を迎え撃つパターンと、地元同士の対戦が最も集客を集めた。

開催地が首都圏地方、近畿地方で合わせて81%と大きく偏っているトップリーグ開催地とチーム拠点における関係には比例関係があるといえる。

結章

日本ラグビーは大学・社会人ラグビーを中心として発展してきた。すなわちアマチュアラグビーが日本ラグビーの歴史である。企業スポーツとしての発展をしてきたラグビーは企業の持つ部という形態である。したがって、部を持つ企業の本社にチームの拠点を置いている。このシステムが続く以上、ラグビーの爆発的な人気をトップリーグのみの興行で得るのは難しい。

日本代表を継続的に強化して強い日本代表チームを作り、草の根運動をより活発に継続し、試合の運営権をチームや地方協会に委ねるこのような活動を続けて行けばラグビーに対して国民に受け入れる下地ができ、それをきっかけにして多くの地域に、地域に根ざしたプロラグビーチームを作ることができるだろう。それが実現できれば日本ラグビーはこれまでにない発展をするだろう。